

豊川を守る住民連絡会議続報

昨年の豊川アユ遡上が順調だったのに釣果はさっぱりだったことについて、連絡会議ではブラックバスなど外来魚の食害を疑った。

そこで、外来魚を採捕して胃の内容物にアユがたくさん含まれているか確認する必要性が確認された。

(以上 CAN212 号、2017 年 3 月掲載)



今回は豊川用水牟婁松原頭首工湛水地で採捕調査をするための準備を話し合う会が 2017 年 5 月 20 日開催され、漁協や市民 12 名が現地で打合せを行った。写真は魚道を観察する参加者。

私は、何はともあれ外来魚を駆除して片端から腹を裂いてアユを食っているか調べればよいと思っていたが、話は単純ではなかった。

まず、調査範囲は頭首工から上流の野田城大橋までとすんなり決まった。次に調査方法と時期。調査方法は対象魚により変わるので、まず何があるのか予備調査を近日中に行うことになった。調査のためには船が必要なので漁協が持ち主と交渉して手配することになった。採捕方法は釣り、刺し網、タモが常識的だが刺し網を今は使える人が少ないのでこれも漁協が対象者を探すことになった。

関係者（国交省、水資源機構、県、漁協など）への同意取り付けのためには調査目的を明確にする必要がある。いろいろ整理した結果、①外来種の存在を証明する。種類、量を記録し科学的証拠とする。②外来魚がアユを大量に食べているかどうかの証明は稚アユがすぐに消化されてしまうので難しいと思われるが、とにかく調査してみる。ということになった。

頭首工の下流や魚道では稚アユも確かにいたが目立ったのは 30~40 センチ級のコイ。以前は捕まえて食べる人も結構いたというが、今はめったにいないという。コイは雑食性なので稚アユも食べていると思われるがあまり研究成果はないようだ。

下流河川にはカワウらしい鳥が 10 羽くらい。アユの天敵は多そうだ。

予備調査は 6 月~7 月で日程を調整して行うことになった。可能なら CAN も取材したいと思う。

なお、以下のよう
矢作川
研究所
メール
マガジ
ン ~
9 号



2017/5/19 では 4/24-25 に矢作川中流に礫を投入し、川底環境を改善することでアユのなわばり行動が回復するかを検証する実験を始めましたとしています。「矢作川には毎年、多くの天然アユが遡上しますが、中流域を中心にアユがなわばりを形成せず、友釣りでアユが釣れない問題が深刻となっています。この原因の一つに、川底が石畳のように固く動かなくなる現象（アーモークート化）が進行し、アユが好む付着藻類が減少したことが考えられています。実験では阿摺ダム下流（通称 ソジバ）の瀬に、矢作ダムに堆積した直径約 8-30 cm の礫を利用して、約 15 m x 20 m の区画に約 20 cm の厚さで敷き詰めました。」

